

# 😊絵本読み聞かせ通信😊

【赤ちゃんから幼児向け】

♣保護者の皆様へ♣

第4号（令和6年4月発行）芦別市立図書館

## ♣心と考える力を育む読書♣

子どもが成長するためには、栄養のある食べ物が重要です。そして、健康であるためには運動はかせません。体は食べ物と運動で成長します。

心は、色々な体験を通して少しずつ成長しますが、心の栄養になるものの一つに本があります。本には、色々な事が描かれています。体験できることはもちろん、普通は体験できないことも本の世界では起こります。多くの子どもは、本を読むとその世界に入り込み、登場人物になります。楽しい場面で喜び、悲しい場面で泣きます。登場人物になることで、色々な体験をして、その気持ちがわかり、心が育ちます。本を読むことは、相手を理解し考える力を育み、心を育てる栄養を与えることにつながります。



### 「心を育てる本を読もう！」

#### ★ 本には主食と副食があります ★

食事には、体を作るのに必要な栄養素を摂るための主食と、副食と言われる食べ物（デザートやおやつなど）があります。

それと同じように、本にも、主食と副食があります。小さな子（赤ちゃん）には、主食となる本を読むことをお勧めします。

主食と言われる本の多くは、ロングセラー本と呼ばれ、世代を超えて、今も読み継がれている本で、心の成長に必要な要素が含まれています。家読通信では、主食本を中心に紹介しています。



#### ★ 副食本は楽しむ本 ★

ゲーム攻略やキャラクター本など流行に左右される本は、副食本になります。時間が経つと内容が古くて使えなくなったり、テレビの放送が終了すると、見られなくなることが多い本です。主食ではありませんが、好きなテーマですから、楽しみにはかせません。デザートは別腹というように、主食と副食を上手に使って、楽しい読書を楽しみましょう。副食本がきっかけで、本が好きになることもありますよ。

#### ★ ロングセラー本とは ★

ベストセラーはたくさん売れた人気の本。ロングセラー本とは、長く読み継がれている本のことで、出版から本の形態が変わらない本です。小説などは、出版から時間が経つと文庫本になったりしますので、ロングセラー本の多くは絵本です。1960年代に出版された本が今でも書店に並んでいます。

#### ★ 読み聞かせはコミュニケーション ★

外出時や、病院での待ち時間など、子どもに静かにしてほしい時に、デジタル画像はととても便利です。上手に使って子育てしている方が多いと思います。でも、家で過ごすときは、絵本を見せてください。子どものリズムに合わせた読み聞かせで、コミュニケーションしましょう！

さわってみてね



「どーこかな？」

作・絵：こがようこ  
出版社：瑞雲社

たいそうはじまるよ



「ペンギんたいそう」

作・絵：齋藤 楨  
出版社：福音館書店

なかないで



「いたいいたいはとんでいけ」

作：松谷みよ子  
絵：佐野洋子  
出版社：偕成社

まってまって



「ころころぽーん」

作・絵：荒井洋行  
出版社：ほるぷ出版

かぞくでいっしょ



「どうぶつのおやこ」

作・絵：薮内正幸  
出版社：福音館書店

表情に注目



「こちょこちょこちょ」

作・絵：日隈みさき  
出版社：エンブックス

楽しいことをしましょう！

赤ちゃんは、やさしい言葉かけや笑顔に愛情を感じます。絵本は赤ちゃんとのコミュニケーションを助けてくれるものです。リズムカルな言葉や、歌、ふれあい遊びは、楽しさの中心になります。絵本を使って楽しく遊びましょう！

さわって、まねして

赤ちゃんにおすすめは、実体験できることが描かれている絵本。「どーこかな？」は目や口など、顔をさわって遊びます。「ペンギんたいそう」は体を動かす。「いたいいたいはとんでいけ」は痛いところをこすってあげるなど、すぐにまねできることが描かれています。

生活の場面がテーマの本

- おててがでたよ (林明子)  
おようふくをかぶって、さあたいへん
- こぐまちゃんおはよう(わかやまけん)  
朝から夜まで、何したのかな
- おふろでちやぷちやぷ (いわさきちひろ)  
おふろだ～いすき
- はみがきあそび(きむらゆういち)  
はみがきできるかな。  
楽しいかけ絵本
- うんちでるかな？ (新井洋行)  
どんなうんちが出るのかな？



いっしょにじゃんけん



「じゃんけんぽん」

作・絵：せなけいこ  
出版社：鈴木出版

さあやってみよう！



「できるかな？」

あたまからつまさきまで  
作・絵：エリック・カール  
出版社：偕成社

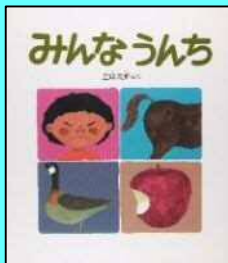
ひとりでおでかけ



「でんしゃにのって」

作・絵：とよたかずひこ  
出版社：アリス館

どんなうんち？



「みんなうんち」

作・絵：五味太郎  
出版社：福音館書店

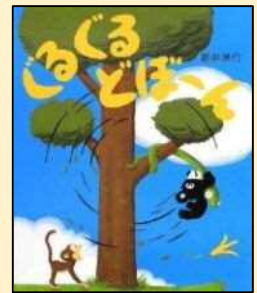
ぼくをつれていって



「くまのコールテンくん」

作・絵：ドン・フリーマン  
出版社：偕成社

さあ、たいへん



「ぐるぐるどぼーん」

作・絵：新井洋行  
出版社：ほるぷ出版

好きな本にも個性が出てきます

食べものにも好みがあるように、好きな本にも個性が出てきます。動物や乗り物、かわいい絵を選んだり…。大好きな本を手にとると、「その本は読んだから、違う本を選ぼうね」と話していることがあります。貸出冊数に制限はないので、子どもが選んだ本と別の本を借りるというのはいかがですか？繰り返すのは、その本の中に意味のある大切なことを見つけているのかもしれません。

子どもの好きを知ろう

色々なことに興味や関心を持っている子は、自分で知ろうとします。子どもの好奇心に寄り添って子育てを楽しみましょう！

春のおすすめ本

- はるはゆるゆら(五味太郎)  
ゆるゆら、春を楽しもう
- はるですはるのおおそうじ  
(こいでたん/文・こいでやすこ/絵)  
おうちスッキリ、すてきな出会い
- はるのやまはザワザワ (村上康成)  
春になるとみんな元気
- はなをくんくん  
(ルース・クラウス、マーク・シーモント)  
みんな、どこへ行くのかな？
- はるかぜのたいこ  
(安房直子/文・葉祥明/絵)  
暖くなる方法ってなに？
- はるですよふくろうおばさん (長新太)  
ふくろうおばさんはとっても寒がり



ぼくのせんでって だれ？



「おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん」

作・絵：長谷川義史

出版社：BL 出版

わかるかな？



「だ～れだ？」

写真・文：ふじわらこういち

出版社：新日本出版社

ちからをあわせて



「ゆらゆらばしのうえで」

作：きむらゆういち

絵：はたこうしろう

出版社：福音館書店

ちいさな にんきもの



「しょうぼうじどうしゃ じふた」

作：渡辺茂男・絵：山本忠敬

出版社：福音館書店

ぼくもおにいちゃん



「999 ひきのきょうだいの おとうと」

作：木村研・絵：村上康成

出版社：ひさかたチャイルド

まけないぞ



「三ひきのやぎの がらがらどん」

作・絵：マーシャ・ブラウン

出版社：福音館書店

おもしろいは成長した証

「おもしろい」の内容は、年齢や理解力によって違います。色々なことがわかってくると、おもしろさの範囲が広がり、大人も一緒に楽しめる本がふえてきます。読み聞かせをすることで、子どもと一緒に、絵本のユーモアを楽しむことができます。

本を楽しむコツ

絵本は絵と文からできていて、両方あることで、より楽しむことができます。拾い読みをしている状態では、絵を見ることができず、楽しさが半減します。初めは、読んであげてください。本の面白さが分かるようになると、自分から読むようになります。

子どもも大人も笑顔になる本

- ぴつけやまのおならくらべ (かさいまり/文 村上康成/絵)
- ねずみくんのチョッキ(なかえよしお/作 上野紀子/絵)
- おかえし (村上桂子/作 織茂恭子/絵)
- だじゃれむかしむかし (長谷川義史/作・絵)
- でんせつのきよだいあんまんをはこべ (サトシン/作 よしながこうたく/絵)
- かたづけポイ・ポイ！ (トニー ボニング/作 サリー ホブソン/絵)

